

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年11月）

《今月のトピックス》

- 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年の同時期と比較しかなり多く発生しています。
- インフルエンザは流行注意報が発令されています。手洗いや咳エチケットなどの感染対策を心がけましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心として多く発生しており、注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

＜11月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	11件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	10件	水痘(入院例に限る)	2件
ウイルス性肝炎	2件	梅毒	18件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件		

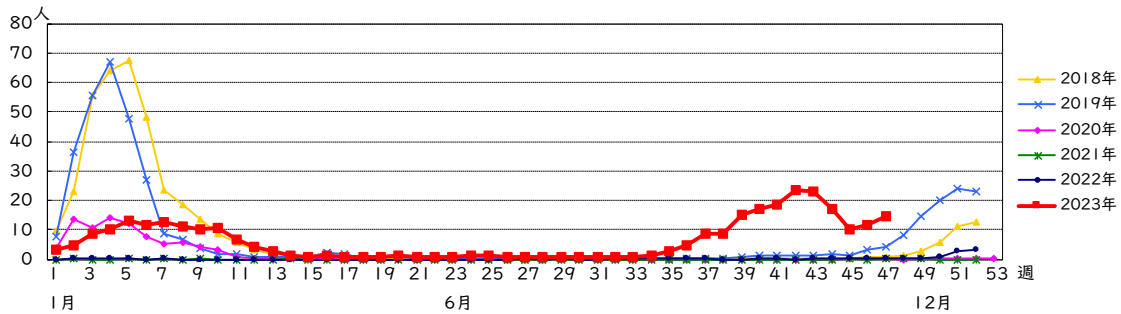
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～60歳代で、血清群O157が7件、O103、O115、O126が各1件、O血清不明が1件です。経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が10件ありました。
- 2 **E型肝炎**:70歳代で、経口感染と推定されています。
- 3 **デング熱**:20歳代で、海外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症**:30歳代～90歳代で、水系感染と推測される報告が3件、水系感染または塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が6件ありました。
- 5 **ウイルス性肝炎**:いずれも20歳代で、B型が1件、EBVが1件です。いずれも性的接触による感染と推定されています。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:70歳代及び90歳代で、血清群はB群が1件、C群が1件、いずれも感染経路等不明です。
- 8 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代及び40歳代で、性的接触(異性間1件、同性間1件)による感染と推定される報告が2件ありました。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:30歳代及び70歳代(ワクチン接種歴1回1件、無1件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 10 **水痘(入院例に限る)**:20歳代及び70歳代(ワクチン接種歴不明2件)で、いずれも飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 11 **梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者4件です。性的接触による感染と推定される報告が18件(異性間17件、詳細不明1件)ありました。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第43週	10月23日～10月29日
第44週	10月30日～11月5日
第45週	11月6日～11月12日
第46週	11月13日～11月19日
第47週	11月20日～11月26日

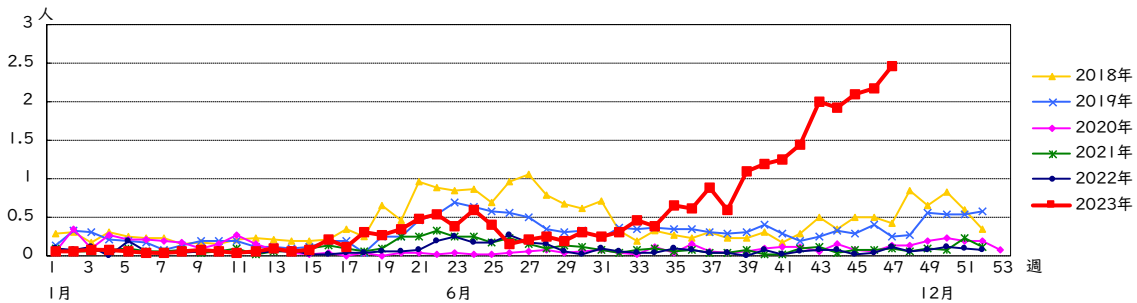
1 インフルエンザ:

第34週以降増加が続き、第39週14.86で流行注意報発令基準値(定点あたり10.00)を上回りました。第47週は14.53です。詳細は、横浜市インフルエンザ流行情報11号をご参照ください。



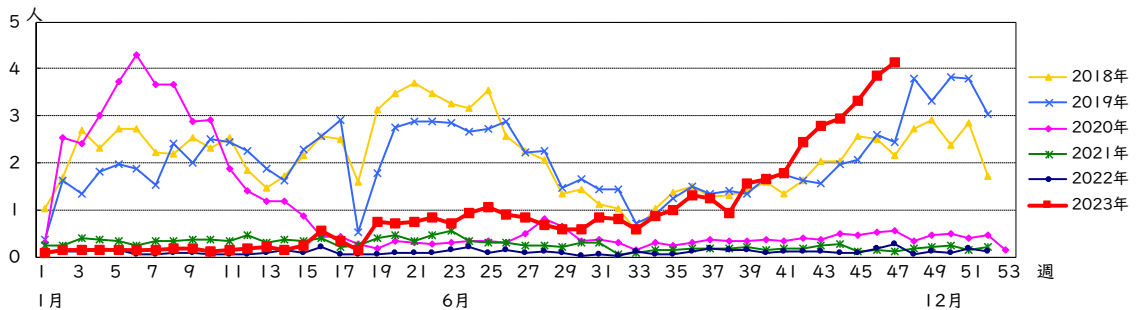
2 咽頭結膜熱:

第30週以降増加傾向が続き、第47週は2.46です。過去5年間の同時期と比較し、かなり多くなっています。



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:

第39週以降増加傾向が続き、第47週は4.12です。過去5年間の同時期と比較し多くなっています。



4 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:38件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:10件	女性:4件	淋菌感染症	男性:22件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.25	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.25	0.25	0.00	0.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

11月期(2023年第43週～第47週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、内科定点4件、基幹定点5件及び定点外医療機関1件でした。

ウイルス分離 10 株及び各種ウイルス遺伝子 27 件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第43週～第47週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ A	手 足 口 病	感 染 性 胃 腸 炎	ア デ ノ ウ イ ル ス 感 染 症 ・ 肺 炎	低 月 齢 発 熱
アデノウイルス	- 3						- 1
アデノウイルス2型	2 -						
アデノウイルス3型	4 -				- 1	1 -	
パラインフルエンザウイルス2型	1 -						1 -
ヒトボカウイルス	- 1						
ライノウイルス	- 1						
コクサッキーウイルスA6型	- 1			- 1			
ヒトコロナウイルスOC43	- 3	- 1					
RSウイルス		- 1					
インフルエンザウイルスAH1pdm			- 7				
インフルエンザウイルスAH3			- 5				
エンテロウイルス					- 1		
エンテロウイルスA71型				1 -			
合計	7 9	- 2	- 12	1 1	- 2	1 -	1 1

上段:ウイルス分離数

下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

11月期(2023年第43週～第47週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点から劇症型溶血性レンサ球菌1件、侵襲性肺炎球菌1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌10件、コレラ菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌1件、薬剤耐性アシネトバクター1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、非定点からライム病疑い2件、ブルセラ症疑い3件、保健所からレジオネラ属菌6件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、咽頭炎等3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第43週～第47週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	劇症型溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌(1)	
		侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
保健所		腸管出血性大腸菌	10	O157:H7 VT1 VT2 (3)、O157:H- VT2 (3)、O26:H11 VT1 (2)、O103:H2 VT1 (1)、O126:H20 VT1 VT2 (1)	
		コレラ菌	1	<i>Vibrio cholerae</i> (non-O1、non-O139、CT(-)) (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
		薬剤耐性アシネトバクター	1	<i>Acinetobacter bereziniae</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	C群溶血性レンサ球菌(1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	非定点	血清、血漿	ライム病疑い	2	ライム病、回帰熱ボレリアPCR 陰性、ボレリア抗体 陰性(2)
		血清	ブルセラ症疑い	3	ブルセラ症の血清抗体検査 陰性(3)
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	6	培養陰性(4)、 <i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液 (鼻咽頭ぬぐい液)	咽頭炎、咽頭痛、紅斑	3	A群溶血性レンサ球菌 TB3264 陽性(1)、TUT 陽性(1)、T4 陽性(1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】